

元気通信 大正区三軒家西地域から 地域ぐるみで朝食の大切さを伝えたい 「朝のこども食堂」すみれキッチン	2
居場所いろいろ 喫茶ふれあい(福島区) さわやかな朝の社交場 「変わらぬ味と楽しむ心で」 地域社会の一員として(三菱UFJ銀行新人研修)	3
市社協 成年後見制度と市民後見人への期待	4
市社協 読者アンケート「協力のお願い」	5
市社協 中期経営計画を振り返って	6
はじめまして！こんにちは NPO法人女性子育て支援グループ・pokapoka だれもが自分らしく安心して子育てしていくために	8

大阪の 社会福祉

2019.7

770

The social welfare
in OSAKA

社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

地域の思い出に、橋本店長(左)や
区社協・川原さん(右手前)も仲間入り

都島区

「誰かと話したい」
「活動に参加したい」の声から開催
ファミマ×都島区社協コラボ企画

cafe
ま〜ぶる

6月8日(土)、都島のコンビニ前で「cafe(カフェ) ま〜ぶる」ののぼり旗がそよ風になびいた。可愛いデザイン旗にエスコートされるように、地域の高齢の方や子連れママたちなどさまざまな人たちが集い、思い思いにくつろぎ語り合う人たちの笑顔が広がった。ファミリーマートと区社協のコラボで実現したふれあいの場。企業として、社協の専門職として、この取組みに込めた思いを紹介する。

初めて出会う人とも 気楽に語り合える居場所

「カフェま〜ぶる」は午後2時から4時まで、ファミリーマート都島本通三丁目店イートイ

ンスペースと戸外のパラソルシート、通りを挟んですぐの、ふれあいセンター都島(区社協)のオープンスペースで開店。区社協職員とファミリーマート店長とが話し合いを重ねて実現した。(2・3面に続く)

HB

認知症が大きな社会問題になっている。統計上は1000歳になると1000パーセント認知症だとか。100

0歳になって元気な人は誤差のうちだとか▼人間だけかと思っていたら、うちのゴンタもどうやら認知症らしい。散歩に行っても途中で歩かなくなる。おしっこをするときに足をあげなくなる。犬小屋のえさのトレーをひっくり返したり、大便を小屋の中でするようにもなった▼天気の良い日には庭に出して、ゆっくりさせようと思っても、ずっと歩き続ける。私の周りをぐるぐる何周も回る▼もう犬は飼わないと決めていたのに、15年前、ペットショップの小屋の中にいるゴンタと目が合った瞬間に、これは連れて帰らなければいけないと、まるで神様の啓示のように、我が家で一緒に暮らすようになった▼家中の物をかじりまくって、居間から廊下に移されたり、隙間を縫って脱走して、警察に保護されたり。いろんなことがよみがえってくる。残された短い時間、どこで排泄しよう、庭を徘徊しよう、彼のしたいように暮らさせてやりたいと思う▼たとえ犬でも、家族だから、最後の時を迎えると、それくらい愛しい。(石)

(1面より続き)

2000円の参加料でコーヒーなどのドリンクとスイーツを提供。スタッフは、カフェらしいおしゃれなエプロン姿でテーブルをまわり、来場者を席に案内したり、さりげなく話し相手になったり、自然体でなごやかにふるまう。

時の経過とともに来場者は増加。地域のあちこちからやってきた人々は店内や戸外のテラス席など、思い思いの「居場所」を見つけ、この日初めて出会った人同士もなごやかに語らい、会話が弾む。70代の女性は、「一人で家にいるよりも、出かけてきて良かった。違う世代の人と話ができてうれしい」と顔をほころばせていた。

企業としての 地域貢献への思い

今回のコラボは、区社協が昨年と今年、2回おこなった「認知症SOS声かけ訓練」に同店舗が協力したことがきっかけ。ファミリーマートは地域住民とともに活動することを行動指針にしており、今回も区社協が共催を依頼したところ、スムーズに話が進んだという。「50人ほど集まった声かけ訓練に参加し、また一緒に何かできたらいいなと思っていました。地域の



コンビニ内のカフェに、近くの施設の方も訪れた

相談窓口を 訪れる人の思いから

中でお店としてできることを考えながら、この地域には他にもフランチャイズ店があるので、そことも連携して、今後さらにステップアップできればいいですね」と店長の橋本充生さん。カフェまぐろの頼れるスタッフとして自店とふれあいセンター都島との間を精力的に行き来し、地域住民とのふれあいを大切にされていた。

企画の背景には、作業所に通っている一人の青年との出会いがあった。その男性は、作業所の外に出ていろいろな人と交流し、社会参加がしたいという思いをもち、区社協をはじめ、さまざまな相談機関に出向いて、



「おかわり！」の声など、こどもたちの笑顔がいっぱい

今回の、こどもたちに無料朝食を提供した「三軒家西地域すみれキッチン」は、規則正しい生活習慣や食事の大切さに気づいてもらいたいという思いから生まれた。発起人の一人である主任児童委員の岡本美穂さんは「朝食をあまり食べていないこどもたちにも来てもらって、朝ごはんの大切さをこどもたちにかかりと伝えたい」と語る。この日のメニューには卵焼きやほうれん草のおひたし、味噌汁が並び、和食のすばらしさをこどもたちに伝える意図があった。また、食器にもこだわりの、プラスチックではなく陶器を使用した。月3

元気通信

大正区 三軒家西地域から
地域ぐるみで朝食の大切さを伝えたい
～朝のこども食堂「すみれキッチン」～

6月12日
(水)の朝、
三軒家西小学校に到着
した全校児童のうち約
半数のこども
たちが家庭
科室へと
向かった。



温かいごはん味噌汁をチームワークで手早く盛り付け

かわりしたこどももいた。

今回、こどもたちに無料朝食を提供した「三軒家西地域すみれキッチン」は、規則正しい生活習慣や食事の大切さに気づいてもらいたいという思いから生まれた。発起人の一人である主任児童委員の岡本美穂さんは「朝食をあまり食べていないこどもたちにも来てもらって、朝ごはんの大切さをこどもたちにかかりと伝えたい」と語る。この日のメニューには卵焼きやほうれん草のおひたし、味噌汁が並び、和食のすばらしさをこどもたちに伝える意図があった。また、食器にもこだわりの、プラスチックではなく陶器を使用した。月3

回、高齢者ふれあい食事サービスを毎食手作りで実施されている地域のボランティアが調理担当で、調理や配膳などそれぞれの役割分担、連携ができていて、地域ぐるみのチームワークが抜群であった。三軒家西更生保護女性会・理事の北川美恵子さんは「調理は必ず2時間前から開始する、試食係と調理係を明確に分けるなど、保健所の助言に従って慎重に調理しました。何も問題が起きず、こどもたちも喜んでくれたので良かったです」。また、三軒家西社協・副会長の白山廣子さんは「参加するこどもはいつもより早く登校する必要があるため、見守り役の地域のボランティアを調整し、こども一人ひとりの引率者を明確にし、安全には気を配りました」と話す。

三軒家西社協・会長の寄本文信さんは「地域のさまざまな団体や学校、警察、区社協などがこどもたちのために一丸になるのが三軒家西地域のよいところだと思います。この取組みは学期ごとに1回おこなう予定ですが、とにかく継続していきたいですね」と今後の思いを語った。



区社協のオープンスペースでも、思い思いに交流した

いた。
区社協の見守り相談室管理者の川原佳代さんは「区社協の窓口には、例えば『冠婚葬祭にはどんな服を着ていけばいいか』など、日常の社会生活でのちょっとした相談をされる方、誰かに話を聞いてほしいという方など、さまざまな思いや悩みを持つ人が来られます。そこで、さ

さいなことでも気楽に話せて、それぞれができる範囲で役割を担えるカフェをやってみようということになりました」と話す。
区社協内で、地域支援担当や生活支援コーディネーター、地域包括支援センターなどのさまざまな部署が連携。それぞれに関わる人たちがつながれる場所にできればとの思いも込めて、話し合いを重ねた。地域の中での交流の場になじみにくい方も居心地よく過ごせる場となるよう、ファミリーマートをはじめ、医療機関、介護事業所なども、それぞれができる強みを活かして運営に関わった。

当日は、開催のきっかけになった青年も参加し、ゆったりとした交流の舞台となった。カフェまぶる。そこには、年代も背景もさまざまな来場者をさりげなく温かく見守る専門職のまなざしと、自分たちのペースでいきいきと過ごされる地域住民の姿があった。

居場所 いろいろ

-11-

おおひらき
大開厚生年金住宅の集会

所に、コミュニティサロン「喫茶ふれあい」が誕生して今年で7年目を迎える。

運営は、高齢化が進む中「住民同士で助け合って暮らしていきたい」という思いから発足した住民ボランティア組織「ふれあいクラブ」だ。「喫茶ふれあいを地域の人が井戸端会議のできる憩いの場として立ち上げた」と部長の竹内利和さん。

ほぼ満席の参加者は、50人を超える時もあり、男性も比較的多いという。「知り合いが増える」ことを楽しみ、顔なじみの方に挨拶したり、「あとで電話するからね」と約束を交わしたり、さわやかな朝の社交場になっている。

「シンプルにコーヒーを提供しているだけ」と話す喫茶リーダーの長曾幸子さん。確かに、カフェでは生演奏も、脳トレもな



元気いっぱい！ふれあいクラブのみなさん

喫茶ふれあい

- 主催：ふれあいクラブ
- 日時：毎週木曜日10:00～11:30
第3木曜日は「喫茶ふれあいアップル（オレンジカフェ）」を同時開催
- 場所：大開厚生年金住宅ふれあい館（福島区大開4-3）
- 対象：どなたでも
- 料金：無料（コーヒー・紅茶各100円、トースト・ゆで卵各50円）
- 問い合わせ：福島区社協 06-6454-0531

さわやかな朝の社交場

～変わらぬ味と楽しむ心で～

い。しかし、豆から挽いた本格派のコーヒー、白身ふっくらゆで卵など、開店当初からこだわりの味を守り続けている。

3年前から、区社協の認知症初期集中支援チームの協力で、第3木曜日に認知症があっても利用できるオレンジカフェを併設し、グループホームの利用者を受け入れている。「帰るときは名残惜しそに『一緒に（施設へ）行こう』とおっしゃる。喜んでもらっているという実感が、私たちの励み」とは副部長の太田和子さん。スタッフは女性が13人、男性が4人。フラットな関係でリーダーも任期制（2年）。「できる人が、できることを、できるときに」をモットーに活動している。

場所を管理組合から提供してもらっているものの、助成金等は一切受けていない。どこにも負担をかけず、参加者もスタッフも楽しみ、活動を持続できる洗練された形が、年月とともに築かれてきたのかもしれない。竹内部長は「今後も、変わらぬ姿勢で続けていきたい」と語った。



明るく開放的なふれあい館

地域社会の一員として 三菱UFJ銀行新人研修「C.C.P.」

三菱UFJ銀行が取り組む「C.C.P.研修（※）」は、今年で13年目。新入社員が地域社会の中でボランティア活動を体験することを通じて、自分たちが「社会の一員」であることを実感し、相手の立場に配慮した多様なコミュニケーションやチームワークの大切さなど主体的に考えることを目的に、東京ボランティア・市民活動センターと連携して取り組まれてきた。

今年度、初めて体験研修の場を大阪に拡充したことから、大阪市社会事業施設協議会加盟施設に協力を呼びかけ、大阪市ボランティア・市民活動センターが市内9施設・団体をコーディネート。新入社員たちは4～8人のチームに分かれ、高齢の方や障がいのある方、こどもたちと関わりながら、気づきや学びを深める体験研修に臨んだ。



チームで考え企画した読み聞かせや歌で親子が楽しく交流

概要を学んだ後、利用者とともに過ごし、二日目は、利用者とともに楽しむことができる「交流企画」を実施。受入れ施設のひとつであるこどもの施設では、読み聞かせのほか、親子で楽しめる歌や手遊びを披露するなど、利用者とともに楽しいひとときを作りあげた。

全体の振り返りでは、どのチームも、はじめて接する利用者とのコミュニケーションに課題を感じていたが、スタッフから「まずは相手を受け入れ

て。相手のことを考えて」などのアドバイスを受けたことを共有。やわらかい表情で接することを心がけたことで利用者との距離が縮まったなど、体験から得たそれぞれの気づきを確認しあい、これからの業務に活かしていくと決意を新たにしていた。

同社人事課は「社会の一員、企業の一員として、自分たちが何ができるのか改めて考えても

市社協 成年後見制度と市民後見人への期待 ～ 本人らしい生活を守り、支える ～

判断能力が十分でない高齢者・障がい者の意思を尊重し、本人の生活や財産を守る制度や活動について考える「成年後見制度・市民後見人活動啓発講演会」が、大阪市市民後見人連絡協議会と大阪市成年後見支援センターの共催で、6月1日、旭区民センターで開催され、市民、地域活動関係者、福祉・医療関係者など約150人が参加した。

第1部では、まず大阪家庭裁判所の担当者が成年後見制度の概要と申し立て手続き、後見人の仕事などについて講演。判断能力が不十分であっても「自己決定



参加者は熱心に聞き入っていた

の尊重」「本人の現有能力の活用」の重要性を指摘。制度の概

要についての詳しい説明の後、後見人として意識すべきことは、本人のことをきちんと考えることに加え、一人で考え込まずに、周りの支援者や行政、専門家などに相談することも大切であると締めくくった。

続いて、大阪社会福祉士会の田村満子さん（大阪市成年後見支援センター専門相談員）が「本人らしい生活を支える市民後見人への期待」と題して、ここ10年に渡る大阪の市民後見人の活動の特色と、その意義について講演。特別なことではなく、生活の一部で「お互いさま」のこととして活動してきたのが大阪の市民後見人であり、あくまでも本人を中心に置くという姿勢はぶれないと強調。粘り強く真摯に本人に寄り添うことで、本人が意思を表現する手助けをした市民後見人の活動を実例を交えて紹介。活動者の「地域、捨てたもんやないなと思っただ」という言葉を大阪の市民後見人の真骨頂として紹介した。

第2部は、落語家・露の新治氏による「お笑い人権講座&落語」。「すべての人は宝の子」という素敵な合言葉のもと、すべての人が笑顔で生きられる、差別のない、差別をしない世の中への願いのこもった、笑いがいっぱい詰まった、落語に会場は大いに沸いた。

「大阪の社会福祉」読者アンケート回答用ハガキ

誌面下部をご参照いただき、各項目について、選択肢のうち、あてはまる番号等を[]に記載してください。

- 1** わかりやすさ [] **2** 興味深さ []
3 よく読んでいるコーナー・記事（複数回答3つまで可）
[]

※今まで印象に残ったり、役に立った記事など【自由記述】

[]

- 4** 今後、本誌に期待する記事（複数回答3つまで可）
[]
⑨その他の場合 ()

- 5** 誌面デザインの改善点（①以外は複数回答可）
[]
⑤その他の場合 ()

- 6** ご意見・ご感想【自由記述】

[]

- 7** 住所等 大阪市内 () 区 (その他:)

- 8** 地域活動や福祉関係の関わり（主なもの一つ）
[]
⑥その他の場合 ()

- 9** 年齢 []

キリトリ

「大阪の社会福祉」読者アンケートのご協力をお願い

大阪市社会福祉協議会発行の広報誌「大阪の社会福祉」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。昭和25年3月の創刊以来、毎月、継続発行しております。

このたび、より充実した誌面づくりのため、読者アンケートを実施いたしますので、ご協力よろしくお願いいたします。みなさまからのご意見・ご感想をお寄せください。

【回答方法】

←回答用ハガキはこちら

①ハガキによる回答

次に記載しています質問項目について、左記の回答用ハガキに回答をご記入いただき、ご送付ください。（切手不要）

②パソコン・スマートフォンからの回答

市社協ホームページ(<https://www.osaka-sishakyo.jp/>)のトップページ「お知らせ記事」から読者アンケート専用フォームに入り、入力して回答いただけます。



← スマートフォン等からの
読み取りはこちら

【締め切り】 **7月31日(水)**までに
投函、入力のご協力
をお願いします。

読者アンケート質問項目はこちら↓↓↓

- 1** 記事内容について、わかりやすいものになっていますか
①とてもわかりやすい ②わかりやすい ③やや難しい ④難しい

- 2** 記事内容について、興味深いものになっていますか
①とても興味深い ②興味深い ③どちらともいえない ④そう思わない

- 3** よく読んでいるコーナー・記事について（複数回答3つまで可）

- ①市社協関係の取組み ②区社協関係の取組み
③元気通信（地域単位の取組み） ④居場所いろいろ
⑤社会福祉施設のご紹介 ⑥NPO法人のご紹介
⑦特集記事 ⑧風をよむ（研究者による福祉情報）
⑨HB（コラム） ⑩あまり読んでいない
⑪その他

※今まで印象に残ったり、役に立った記事があればご記入ください

()

- 4** 今後どのような記事の充実や新設を本誌に期待しますか（複数回答3つまで可）

- ①社協関係の取組み ②地域単位の取組み ③施設関係の取組み
④NPO法人関係の取組み ⑤ボランティアグループ関係の取組み ⑥福祉の動向

- ⑦人物（活動者・当事者）を取りあげたもの ⑧レクリエーションなど地域で実践・活用できるもの
⑨その他 ()

- 5** 誌面デザインについて、改善した方がよいと思う点があればお聞かせください

- ①今のままでよい（①以外の場合は複数回答可）
②文字を大きくしてほしい ③写真や図表を大きくしてほしい
④カラーにしてほしい
⑤その他 ()

- 6** その他、ご意見・ご感想をご記入ください。
()

- 7** 住所（もしくは市内の勤務地）

大阪市内 () 区 (その他:)

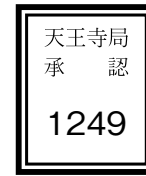
- 8** 地域活動や福祉関係の関わりについて（主なもの一つ）

- ①地域での活動に関わっている ②NPO・ボランティアグループでの活動に関わっている
③社会福祉施設職員・事業所職員 ④公務員 ⑤社会福祉協議会職員 ⑥その他

- 9** 年齢

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代
⑦70代 ⑧80代 ⑨90歳以上

料金受取人払郵便



差出有効期間
令和元年 9 月
30 日まで

(受取人)

大阪市天王寺区東高津町12-10

市立社会福祉センター内

大阪市社会福祉協議会 行

(広報誌「大阪の社会福祉」アンケート)



↑ ↑ ↑

上記の回答用ハガキをキリトリ線に沿ってカットし、
そのまま(切手不要)ポストに投函してください。

【締め切り】令和元年7月31日(水)

キリトリ

市社協

中期経営計画を振り返って

― 理事会・評議員会の開催 ―

市社協は6月5日に市立社会福祉センターにおいて、理事会を開催し、平成30年度事業報告(案)、平成30年度決算報告(案)、令和元年度補正予算(案)、理事及び監事候補者の推薦(案)、評議員候補者の推薦(案)、定時評議員会の開催(案)の6つの議案について審議し、全て原案どおり承認された。また、6月21日に開催された評議員会においても、平成30年度の事業報告及び決算報告等について審議し承認された。

平成30年度事業においては、社会全体でこどもを支える仕組みを構築するため、本会独自事業(新規事業)として「地域こども支援ネットワーク事業」を展開したほか、成年後見制度の利用を促進し、安心できる地域生活を支えるため、本会が受託する成年後見支援センターが中核機能を担い、「権利擁護支援の地域連携ネットワーク」を全国に先駆けて構築したことなどを報告した。

また、新たに理事として、大阪府社会福祉協議会常務理事の田中進氏、大阪府共同募金会常務理事の林田潔氏、大阪府福祉局長の出海健次氏、本会事務局長の浅井俊之氏が選任された。理事会・評議員会の最後には、会長及び常務理事の職務執行状況と中期経営計画について報告した。

中期経営計画は、平成26年度から5年間を取組み期間とし、平成30年度が最終年度であった。各実施項目に対する目標達成度を自己評価し、主な取組み内容を報告した。(別表)

今後は、本計画の「市社協として取り組む重点項目」と「中立・公正な立場にたった事業の展開」について、平成30年3月に策定した「大阪市地域福祉活動推進計画」と関連づけて、区社協活動の支援・地域福祉活動を引き続き推進していく。

また、「組織基盤の強化」については、平成29年度から毎月開催している、市社協管理職と区社協事務局長の代表で構成する「市・区社協経営計画会議」において、人材・財源・組織について、引き続き検討し、安定した経営に向けて取り組んでいく。

<別表> 大阪市社会福祉協議会 中期経営計画 (計画期間：平成26年度～平成30年度)

	重点項目内容	計画期間における主な取組み
市社協として 取り組む重点項目	区社協活動・地域福祉活動の推進支援	「大阪市地域福祉活動推進計画」「参画と協働のための地域福祉ガイドブック」「見守り相談室活動報告集」等の作成 など
	権利擁護の充実	必要な利用者へ成年後見制度への移行支援などによる権利擁護支援体制の強化 など
	情報発信・広報の充実	Web媒体と紙媒体の連動を意識した発信、各情報発信ツールの特性を活かした広報 など
	社会福祉に関わる担い手の育成	企業・NPO・ボランティア活動者・福祉従事者等さまざまな対象を設定した講座等の開催による担い手の育成・支援 など
	災害発生に備えた体制の強化	市・区社協全体での合同災害対策本部設置訓練の継続実施、事業継続計画(BCP)の策定、民間企業やNPO等とのネットワークの構築 など
中立・公正な立場に 立った事業の展開	中立・公正な立場に 立った事業の展開	高い公益性・公共性を有する本会の特性を活かし「要介護認定・障がい支援区分認定調査事業」「地域包括支援センター連絡調整事業」「介護サービス相談センター事業」の三事業を受託・実施 など
組織基盤の強化	人材育成	計画的な職員採用、内部登用制度の導入、新卒予定者を対象とした法人説明会の開催、市・区社協職員採用パンフレット作成 など
	財政基盤の強化	大阪市の公募事業への積極的な応募、本会ホームページのバナー広告掲載募集、賛助会員の加入促進の強化、消費税等の算出に係る見直しによる節税、監査法人の設置に関連した助成金の申請 など
	組織の透明性と信頼性の確保	市・区社協全職員に対する個人情報保護や情報セキュリティ等の研修の実施 など

寄附

みなさんの善意を

収受

社会福祉の発展に

市社協ではさまざまな福祉事業に活用させていただくため、寄附を募集しています。

5月13日、大阪硝子株式会社から15万円の寄附をいただき、新名和也代表取締役社長（写真左）に、市社協の浅井俊之事務局長から感謝状が手渡されました（写真右）。

同社の意向を受け、市社協が実施する「地域こども支援ネットワーク事業」に有効に活用させていただきます。



「火の用心アプリ」を火災予防のお守りに

大阪市内の火災件数は年々減少していますが、近年では火災による死者のうち高齢者（65歳以上）の占める割合が9割近くまで上昇しています。火災原因として最も多いのは「たばこ」で、およそ火災死者の3人に1人の割合となっています。

大阪市消防局では、火災による死者を一人でも多く減らすため、火災予防についてより手軽に分かりやすく知っていただけるよう「火の用心アプリ」を作製しました。「たばこ」はもちろん、「こんろ」や「電気」など、皆さんの身の回りで起こる可能性のある火災について、原因や予防方法を映像で学んでいただけるようにしています。

アプリは無料ですので、ご家族や地域の皆さんでご覧いただき、火災予防にお役立てください。

■アプリのダウンロード方法■

「火の用心」でアプリを検索するか、右の二次元コードからホームページへ誘導していますので、インストールしてください。



【お問い合わせ先】 大阪市消防局予防部予防課（予防）
電話：06-4393-6322

風をよむ

大阪北部地震を振り返る

—都市型災害の危険性—

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 准教授 野村 恭代

大阪北部地震は、2018年6月18日午前7時58分ごろ、大阪府北部を震源として発生した。地震の規模はマグニチュード6.1で、震源の深さは13kmと報道され、大阪市区・高槻市・枚方市・茨木市・箕面市の5市区では、最大震度6弱を観測した。この大阪北部地震は、大阪府内で史上初めて震度6弱を記録した地震であった。さらにその後、日本の全国各地で台風

などによる災害が発生し、復旧作業をおこなう業者が不足するなどの事態が発生した。大阪市内には、大阪市内からだけではなく、府内の他市や他府県からも多くの通勤者が流入してくる。そのため、災害が発生し交通網がストップすると、帰宅するため多くの人が徒歩で長距離を移動することが想定される。大阪北部地震発生時にも、ラッシュ時の鉄道網は次々と停止し、

の地下街の課題に対しては2014年に大阪市地下空間浸水対策協議会を立ち上げ、浸水時の地下街からの止水や避難計画を総合的におこなう取り組みを始めている。しかし、南海トラフの大地震に起因する津波に対しては、対策を講じるまでの時間があまりないため、地下街に直結しているビルの場合には、ビルの上層階などの安全なフロアに逃げることも選択肢として考

影響を受けた人は540万人以上にのぼった。輸送の多くを鉄道に依存する都市の脆弱さが露呈し、「都市型災害」の怖さを再認識することとなった。

この他にも想定しておかなければならないことがある。たとえば、地下街の危険性である。大阪市立大学の瀧澤重志教授によると、地下街は利便性が高い反面、浸水被害のリスクにさらされており、こ

えられている。このように大阪市では、一般的な災害の危険性に加えて、都市ならではの危険性についても、考え、そして備えておく必要がある。

災害は起こらないに越したことはない。しかし、日本は災害大国である。そのため、いつ災害が発生しても対応できるように準備することが重要である。

「NPO法人 女性と子育て支援グループ・pokkapoka(ぽっかぽか)」は、地域で活動する助産師が2000年に始めた小学校での子育て中の親子の集まり「Drop in club」をきっかけに、そこに参加していた母親たちが中心となって、地域で暮らす誰もが安心・安全に子育てができ、自分らしく生きていけるように、任意団体を作りました。その後NPO法人化し、13年目になります。

現在は、助産院・産後ケア・おやこひろば・保育ルーム・小規模保育所・ほうかご広場・子育て家族サポートなど、妊娠中から学童期に至るまで、切れ目なく何か

子さんが親子で話せる場所)「さくらんぼ・ハグ」(多胎児親子の集まり)「Drop in Lunch」(ハイリスクで引きこもりがちな親子に出てきてもらうランチ会)「大学での出張ひろば」(大学生と乳幼児の世代間交流)なども開催し、地域の中での繋がりをづくりをめざしています。

また、これまで利用されていた方、ほかご広場に来ていた子どもたちがスタッフになっていくなど、pokkapokaの思いが伝わっているのだなあとと思うととても嬉しいです。

このような繋がりが、地域の力のアップ

はじめまして！
いんにちは♪
NPO法人のご紹介

だれもが自分らしく安心して子育てしていくために NPO法人 女性と子育て支援グループ・pokkapoka

心配なことがあった時には、いつでも足を運んでもらえるように扉を開けています。

スタッフは、高校生から70歳代と幅広く、活動自体が世代間交流になっています。おやこひろばでは、優しいおばあちゃん目線とピアな子育て世代目線で…ほうかご広場でもおばあちゃん目線とピアな大学生スタッフ目線…幅広い視点での見守りを展開しています。

この他、それぞれの状況に応じた「Nっ子広場」(小さく生まれた赤ちゃんや障がいのあるお子さん、医療的ケアが必要なお

となり、生活しやすい優しい地域になっていくのだと思います。10年後20年後の世代が暮らしやすい場となるよう先を見据えた活動が必要と感じています。

pokkapokaに来てくれる方達はスタッフも含めてみんな家族です。私たちが生活する地域で誰もが自分らしく生きることができ、誰も取り残されることのないよう、ちょっとお節介なおばさん(女性が多い！)めざして、これからもスタッフ一同がんばっていきたいと思います。



住所 〒533-0022
大阪市東淀川区菅原 6-15-17
Tel&Fax 06-6370-4138
HP <https://www.midwife383.com/pokkapoka/>

▷ 60 ◁

善意銀行

平成31年2月15日～令和元年6月15日の
預託・払出は次のとおりです

預託

- <金銭>一般社団法人安原記念福祉財団から90万円
- <物品>キリンググループ労働組合協議会から車いす5台▶大阪海苔協同組合から車いす10台▶ハチ食品株式会社からレトルトカレー3,120食▶株式会社セブン・イレブン・ジャパンから食品・生活用品等146箱

払出

- <物品>大阪市児童福祉施設連盟・大阪市生活保護施設連盟加盟施設へ靴下4,400足▶市内1団体・15区社協へレトルトカレー3,120食▶大阪市児童福祉連盟・大阪市保育連合会加盟施設・市社協・区社協へ食品・生活用品等146箱▶大阪市老人福祉施設連盟加盟施設へ車いす5台

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

www.ms-ins.com

令和元年度赤い羽根共同募金

《赤い羽根賞》

作者
塩崎 栄一さん
(大阪府グラフィックデザイナー)



《製作意図》

「令和元年の新しい元号 赤い羽根共同募金も歴史をつなぎます。」

10月1日から全国で実施する第73回赤い羽根共同募金運動で協力を呼びかける記念バッジのデザインが決定しました。近畿6府県から寄せられた125点の応募作品の中から、選考委員会の審査の結果、赤い羽根賞1点、愛ちゃん賞5点、希望くん賞20点が決定しました。

記念バッジは、今年度の共同募金運動期間中に、共同募金に協力いただいた方へのお礼や、共同募金をPRするためなどに、近畿6府県を中心に広く活用されます。

記念バッジデザイン決まる